

福井なら繊維一貫生産

県外デザイナー招き企業ツアー

業界団体が強み発信

県内繊維企業のネットワークを生かしてエリア完結のものづくりを目指す団体「MADE BY(メイドバイ)」は4日、県外のアパレルブランドのデザイナー

らやディレクターを招き、福井産地の生地開発から縫製まで一連の製造現場を見学してもらった。2日間かけて県内の繊維企業7社を訪問し、もの

づくりのストーリーや県内一貫生産のメリットをアピールする。

メイドバイは、県内の繊維関連企業がネットワークを組むことで、商談や輸送に伴う時間・コストの削減、流通過程での二酸化炭素排出量削減などのメリットを打ち出し、産地内のも

のづくりを活性化させよう



生地の手触りや品質を確かめる参加者＝4日、福井市文京5丁目の明林繊維倉庫

と昨年発足。県と協力し実施したツアーには、東京や大阪のアパレル企業などから10人が参加した。

産元商社の明林繊維(福井市乾徳3丁目、村上貴宣社長)では、天然原料の再生セルロース繊維を使った生地の企画販売などの事業内容を紹介。村上社長は「製織から縫製まで県内で行うことで、仲介コストを削減できるほか、環境にも配慮することができる」と産地内一貫生産の魅力を語った。

参加者は倉庫にある生地を手に取り、素材や織り方について理解を深めた後、アパレル向け縫製のラコーム(本社勝山市滝波町1丁

目、織田研吾社長)を訪れた。参加したデザイナーの山口大人さんは(37)は「企業の横のつながりで産地を盛り上げようとしており、

面白い取り組みだ」と話していた。2日目は、転写技術メーカーや織りネーム製造企業を見学する。(川上みなみ)